

ボランティア
第7陣

各地で活動はじめる

18日に東京を出発した救援ボランティア第7陣のメンバーは、翌19日から各地での活動を開始しています。各地から寄せられたレポートを紹介します。

岩 手

●宮古拠点

【5/19】宮古市津軽石地区で、ボランティア隊全員で200平方メートルの畑に山積したヘドロの除去を行いました。固まったヘドロをくわで掘り起こし、一輪車に乗せて30メートル離れた空き地に移します。今日は風が強くヘドロが舞い上がるため、マスクとゴーグルの装備、ベースキャンプに戻った後のうがい・手洗い・顔洗いは欠かせません。



宮 城

●千厩拠点

【5/19】気仙沼市松崎浦田地区で民家の庭に堆積した泥などの除去、水田で漂着物の撤去を行いました。



福 島

●福島拠点

【5/19】新地町では道路側溝内に堆積した泥の搬出作業と水つまりの解消作業（写真）、南相馬市では、民家の瓦、ブロック塀に使われていたブロックの撤去作業を実施しました。

現地から 新地町の被災状況は想像していた以上で言葉になりません。一方、その近くでは田植えが行われており、何とも言えない感覚の中での活動です。



●会津拠点

【5/19】郡山、会津若松、相馬の3班に分かれて活動しました。郡山班は炊き出し（約1,000食分の野菜カット、避難所5ヶ所で中華スープの調理・配膳）、会津若松班は、物資支援センターでの物資仕分け、相馬班は、いちごハウスに流れ込んだ泥やゴミの撤去、ビニールシートや支柱の取り外し作業を実施しました（写真）。



●いわき拠点

【5/19】市内の民家での片づけ作業と、ボランティアセンター資材班の運営に分かれて活動しました。

準備器材のお知らせ 福島・会津拠点で活動予定の皆様へ

福島・会津拠点では、これまで、郡山・会津若松などで炊き出しや支援物資の仕分け作業を中心に活動してきたため、安全靴・安全中敷きを利用する機会はありませんでした。しかし第7陣以降、相馬地域における屋外での片づけ作業も行うようになっていきます。したがって、今後は安全靴・安全中敷き等の準備をお願いします。

これも大事な活動です ～ボランティアの後方支援～

各拠点のメンテナンス無くして、毎日の活動を円滑に行なうことはできません。宮古拠点では、交代で参加者がボランティアの後方支援を行っています。日中は拠点に残り、水や消耗品の在庫調整、前日に使用した合羽・ゴム手袋・軍手などの洗濯をするなど、翌日の活動に備えます。また、天気のいい日には布団も干します。これらは後方支援のほんの一例ですが、いずれも現場活動を支える重要な任務です。

(写真右) 洗濯を終えたゴム手袋を左右対にして輪ゴム止めている、連合ボランティア隊の桑名紘子さん(UIゼンセン同盟)とベースキャンプ責任者の連合岩手三浦副事務局長。干したゴム手袋を裏返す作業は「厚手なので、指先の力を使います(桑名さん)」



■ 気仙沼市内での民家敷地の片づけ作業(15日) 写真左から作業開始時点、1時間経過後、終了時。4時間かかりですっきりきれいに。



写真で見る 各地の活動

←いわき市内の公道で側溝の清掃。他の地域も同様だが、梅雨時期に側溝から雨水があふれる事態は避けなければならない(15日)



↑ 福島・新地町での作業。ハンマーで細かく砕いたブロックを、ボランティア隊が手渡しでリレーする(19日)